

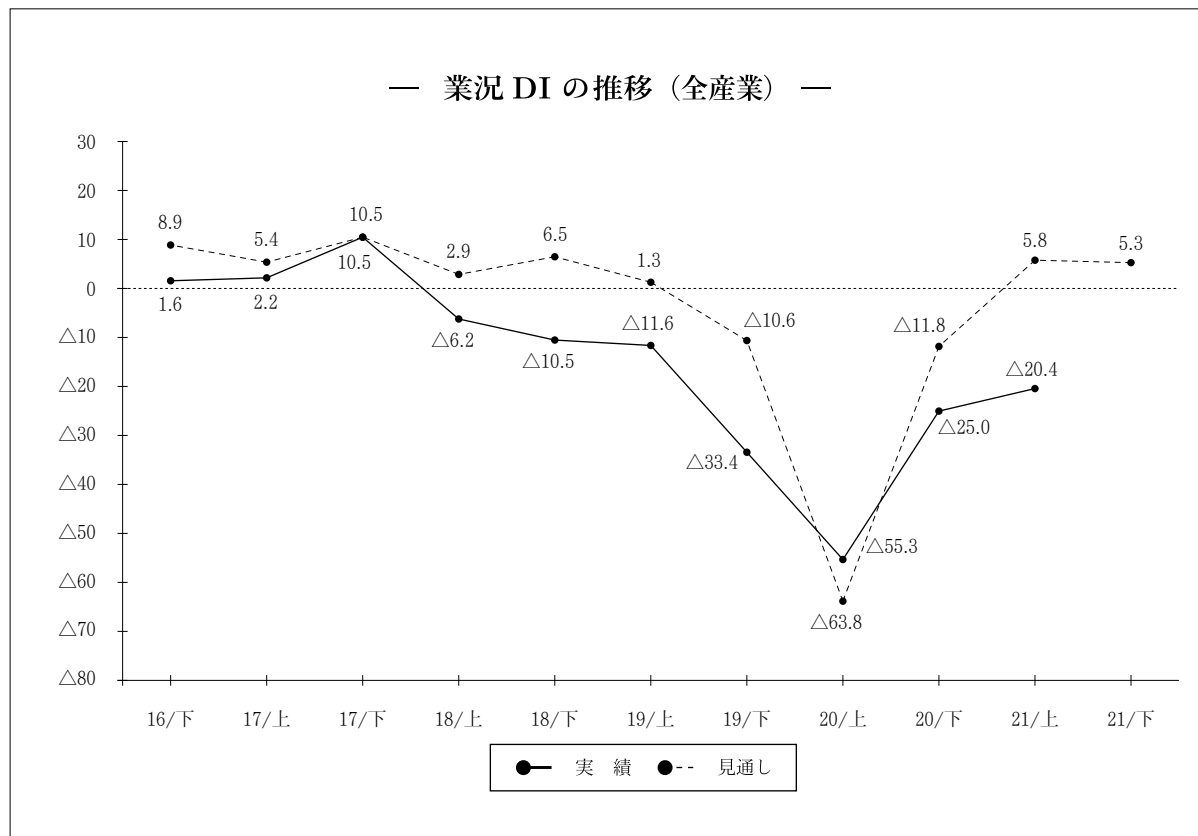
2021. **12**
No. **211**

調査レポート

第 91 回県内企業経営動向調査

要	約		2
1	業	況	 3
2	生	産	 4
3	売	上	 4
4	在	庫	 5
5	仕入・販売価格		6
6	収	益	 7
7	資 金 繰 り		8
8	設 備 投 資		9
9	経営上の問題点		12
10	雇	用	 14

— 2021 年度上期の業況は、7 期連続のマイナス
2021 年度下期は、好転の見通し —



● 調査実施要領

- 1 調査目的：県内主要業界の経営動向把握を通じて、県内景況判断資料を作成する。
- 2 調査対象：県内中堅・中小企業 352 社
- 3 調査対象期間
2021 年 4 月～2021 年 9 月期（実 績）
2021 年 10 月～2022 年 3 月期（見通し）
- 4 調査方法：記名式アンケート調査
- 5 調査時点：2021 年 10 月上旬
- 6 回答状況：有効回答数 319 社
有効回答率 90.6%

※ 当レポート中の業種分類において、「電気機械」には「情報通信機械」、「電子部品・デバイス」も含む。
また、山梨県鉱工業生産指数の業種分類変更に伴い、旧「はん用・生産用機械」のうち旧「はん用機械」と旧「業務用機械」を統合して「汎用・業務用機械」に変更した。

業 種	回答企業数	構 成 比
製 造 業	160 社	50.2 %
食 品	20	6.3
ニ ッ ト	5	1.6
織 物	12	3.8
製 材	5	1.6
家 具	4	1.3
和 紙・紙 製 品	11	3.4
宝 飾	18	5.6
電 気 機 械(※)	24	7.5
生産用機械(※)	20	6.3
輸 送 機 械	14	4.4
汎用・業務用機械(※)	20	6.3
プ ラ ス チ ッ ク	7	2.2
非 製 造 業	159	49.8
建 設	26	8.2
卸 売	25	7.8
小 売	34	10.7
ホ テ ル・旅 館	24	7.5
運 輸	19	6.0
レ ジ ャ ー	11	3.4
サ ー ビ ス	20	6.3
全 産 業	319	100.0

要 約

1. 業 況

2021 年度上期は、7 期連続のマイナス（「悪い」超）となった。県内景気は、半導体製造装置や電子部品など機械工業を牽引役として持ち直しの動きがみられる一方、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、地場産業や非製造業では改善の遅れが窺われており、企業の景況感もそれを裏付ける結果となった。

2021 年度下期は製造業が「好転」超となっている一方、非製造業は「好転」先と「悪化」先が同数となっている。

2. 生 産

2021 年度上期は、「増加」超となった。

2021 年度下期は、引き続き「増加」超となっている。

3. 売 上

2021 年度上期は、製造業が「増加」超となった一方、非製造業は「減少」超となり、総体でも「減少」超に転じた。

2021 年度下期は、製造業、非製造業ともに「増加」超となっている。

4. 在 庫

2021 年度上期は、製造業が「増加」超となった一方、非製造業は「減少」超となったが、総体では「増加」超となった。在庫水準は製造業が「過大」超、非製造業は「過大」先と「不足」先が同数となった。

2021 年度下期は、製造業が「減少」超となっている一方、非製造業は「増加」超となっているが、総体では「減少」超となっている。

5. 仕入・販売価格

2021 年度上期は、仕入価格、販売価格ともに「上昇」超となった。

2021 年度下期は、仕入価格、販売価格ともに引き続き「上昇」超となっている。

6. 収 益

2021 年度上期は、製造業が「増加」超となった一方、非製造業は「減少」超となり、総体でも「減少」超となった。

2021 年度下期は、製造業が「増加」超となっている一方、非製造業は「減少」超となっているが、総体では「増加」超となっている。

7. 資金繰り

2021 年度上期は、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。

2021 年度下期は、製造業が「悪化」超となっている一方、非製造業は「好転」超となり、総体でも「好転」超となっている。

8. 設備投資

2021 年度上期は、実施率が前期を下回ったほか、投資額も 5 期連続の「減少」超となった。

2021 年度下期は、実施予定率が前期実績を上回り、投資額も「増加」超となっている。

9. 経営上の問題点

「売上不振」が最多で、以下、「従業員の高齢化」、「人材・技術不足」、「労働力不足」、「仕入価格高騰」と続いた。前期と比較すると、「売上不振」などが低下した一方、原油・原材料価格の上昇や世界的な半導体不足などを背景に「仕入価格高騰」、「原材料・商品入手難」が上昇したほか、人手不足感の強まりから「労働力不足」が上昇した。

10. 雇 用

2021 年度上期は、製造業、非製造業ともに「不足」超となった。

今後の対策は、「現状維持」が最多で、以下、「正社員の採用」、「アルバイト・パートの補充」と続いている。

〔注〕 DI について

DI（デフュージョン・インデックス）は、景気動向調査における回答企業の業況判断を指数化したもので、「良い」（または「好転」、「増加」等）と答えた企業の割合と「悪い」（または「悪化」、「減少」等）と答えた企業の割合との差である。

例えば、業況について回答した企業のうち、30%の企業が「良い」と回答し、10%の企業が「悪い」と回答した場合、業況 DI は $30\% - 10\% = 20$ となる。なお、「良い」と回答した企業が多い場合（DI がプラスの場合）は「良い」超、「悪い」と回答した企業が多い場合（DI がマイナスの場合）は「悪い」超と表現する。

1 業 況

2021 年度上期実績

全産業の業況実績 D I (「良い」－「悪い」) は、 $\Delta 20.4$ と前期 ($\Delta 25.0$) と比べて 4.6 ポイント上昇したものの、7 期連続のマイナス (「悪い」超) となった。県内景気は、半導体製造装置や電子部品など機械工業を牽引役として持ち直しの動きがみられる一方、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、地場産業や非製造業では改善の遅れが窺われており、企業の景況感もそれを裏付ける結果となった。

製造業は、 $\Delta 8.1$ と前期 ($\Delta 18.7$) と比べて 10.6 ポイント上昇した。このうち機械関連では、生産用機械、電気機械が「良い」超となった一方、汎用・業務用機械、輸送機械は「悪い」超となった。機械関連以外では、家具、プラスチックで「良い」と「悪い」が拮抗した以外は、すべての業種で「悪い」超となった。

非製造業は、 $\Delta 32.7$ と前期 ($\Delta 31.2$) と比べて 1.5 ポイント低下した。レジャーで「良い」と「悪い」が拮抗している以外は、すべての業種で「悪い」超となった。特に、ホテル・旅館で「悪い」と回答した先が 9 割以上を占めた。また、小売は、半導体不足などの供給制約による生産調整の影響で、自動車ディーラーが前期比 107.1 ポイントの大幅な低下となるなど、悪化に転じた。

2021 年度下期見通し

全産業の業況見通し D I (「好転」－「悪化」) は、5.3 と「好転」超となっている。

製造業は、10.6 と「好転」超となっている。このうち機械関連では、電気、生産用、汎用・業務用、輸送の全機械が「好転」超となっている。機械関連以外では、ニット、プラスチック、宝飾が「好転」超となっている一方、家具、製材、織物が「悪化」超となっている。

非製造業は、0.0 で、「好転」先と「悪化」先が同数となっている。レジャー、建設、小売が「好転」超となっている一方、卸売、サービス、ホテル・旅館は「悪化」超となっている。なお、ワクチン接種が広がるなかで、足元では新規感染者数が減少傾向で推移している。そのため、これまで厳しい状況を強いられてきたホテル・旅館は、 $\Delta 4.2$ と「悪化」超ながら実績値と比べて 79.1 ポイント上昇するなど、大幅な改善を見込んでいる。

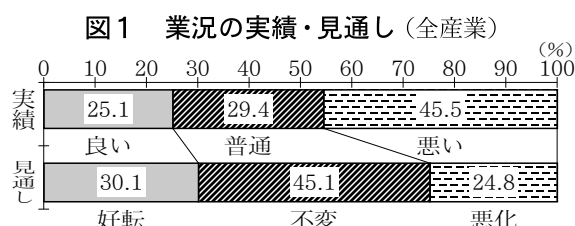


表1 業 況 D I

	2019 年度 下期実績	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績	2021 年度 下期見通し
全 産 業	$\Delta 33.4$	$\Delta 55.3$	$\Delta 25.0$	$\Delta 20.4$	5.3
製 造 業	$\Delta 35.9$	$\Delta 53.2$	$\Delta 18.7$	$\Delta 8.1$	10.6
食 品	$\Delta 25.0$	$\Delta 45.0$	9.1	$\Delta 30.0$	0.0
ニ ッ ト	$\Delta 20.0$	$\Delta 80.0$	$\Delta 33.3$	$\Delta 20.0$	60.0
織 物	$\Delta 91.7$	$\Delta 66.7$	$\Delta 58.3$	$\Delta 58.3$	$\Delta 16.7$
製 材	$\Delta 80.0$	$\Delta 100.0$	$\Delta 100.0$	$\Delta 60.0$	$\Delta 20.0$
家 具	$\Delta 33.3$	$\Delta 25.0$	$\Delta 50.0$	0.0	$\Delta 50.0$
和 紙 ・ 紙 製 品	$\Delta 10.0$	$\Delta 33.3$	$\Delta 30.0$	$\Delta 18.2$	0.0
宝 飾	$\Delta 66.7$	$\Delta 100.0$	$\Delta 80.0$	$\Delta 33.3$	16.7
電 気 機 械	$\Delta 13.0$	$\Delta 31.8$	20.8	33.3	16.7
生 産 用 機 械	$\Delta 15.0$	$\Delta 5.0$	30.0	50.0	15.0
輸 送 機 械	$\Delta 63.6$	$\Delta 84.6$	$\Delta 28.6$	$\Delta 7.1$	14.3
汎 用 ・ 業 務 用 機 械	$\Delta 22.7$	$\Delta 72.2$	$\Delta 36.8$	$\Delta 25.0$	15.0
プ ラ ス チ ッ ク	$\Delta 37.5$	$\Delta 33.3$	$\Delta 25.0$	0.0	57.1
非 製 造 業	$\Delta 30.7$	$\Delta 57.2$	$\Delta 31.2$	$\Delta 32.7$	0.0
建 設	4.0	$\Delta 7.7$	0.0	$\Delta 7.7$	7.7
卸 売	$\Delta 52.4$	$\Delta 54.2$	$\Delta 39.1$	$\Delta 24.0$	$\Delta 12.0$
小 売	$\Delta 7.4$	$\Delta 45.5$	9.7	$\Delta 38.2$	5.9
ホ テ ル ・ 旅 館	$\Delta 84.2$	$\Delta 100.0$	$\Delta 100.0$	$\Delta 83.3$	$\Delta 4.2$
運 輸	$\Delta 60.0$	$\Delta 77.8$	$\Delta 50.0$	$\Delta 36.8$	0.0
レ ジャ ー	$\Delta 58.3$	$\Delta 92.9$	$\Delta 63.6$	0.0	9.1
サ ー ビ ス	4.8	$\Delta 54.5$	$\Delta 16.7$	$\Delta 20.0$	$\Delta 5.0$

2 生 産

2021 年度上期実績

全産業（製造業および建設業）の実績 D I（「増加」－「減少」）は、12.6 と前期（8.9）と比べて 3.7 ポイント上昇し、「増加」超となった。

このうち機械関連では、生産用、電気、汎用・業務用、輸送の全機械が「増加」超となった。前期との比較では、汎用・業務用機械、生産用機械が各々 29.7 ポイント、20.0 ポイント上昇するなど、増産の動きが強まった。機械関連以外では、和紙・紙製品が「増加」超となった一方、織物、ニット、宝飾、建設、食品は「減少」超となった。

2021 年度下期見通し

全産業（製造業および建設業）の見通し D I（「増加」－「減少」）は、15.5 と「増加」超となっている。

このうち機械関連では、生産用、輸送、電気、汎用・業務用の全機械が「増加」超となっている。機械関連以外では、和紙・紙製品が「減少」超となっている一方、プラスチック、ニット、建設、食品、宝飾は「増加」超となっている。

図2 生産の実績・見通し（製造業・建設業）

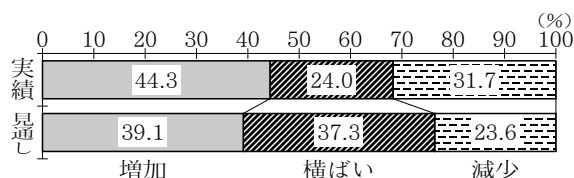
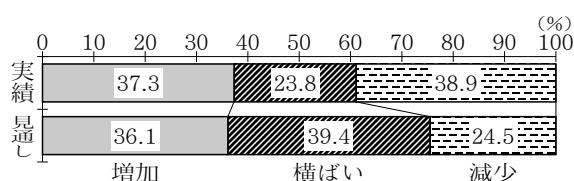


表2 生産 D I

	2020年度 上期実績	2020年度 下期実績	2021年度 上期実績	2021年度 下期見通し
全産業	△40.7	8.9	12.6	15.5
製造業	△44.0	11.2	16.7	12.7
建設業	△23.1	△4.0	△12.5	33.3

図3 売上の実績・見通し（全産業）



3 売 上

2021 年度上期実績

全産業の実績 D I（「増加」－「減少」）は、△1.6 と前期（4.8）と比べて 6.4 ポイント低下し、「減少」超に転じた。

製造業は、15.6 と前期（11.6）と比べて 4.0 ポイント上昇し、「増加」超となった。このうち機械関連では、生産用、電気、汎用・業務用、輸送の全機械が「増加」超となった。機械関連以外では、製材、宝飾、和紙・紙製品が「増加」超となった一方、織物、ニット、食品は「減少」超となった。

非製造業は、△18.9 と前期（△1.9）と比べて 17.0 ポイント低下し、4 期連続の「減少」超となった。運輸、レジャーが「増加」超となった一方、ホテル・旅館、サービス、建設、小売、卸売は「減少」超となった。半導体不足の影響で生産調整が行われたことから、自動車ディーラーで「減少」と回答した先が 8 割以上を占めたほか、感染症の影響で観光需要が低迷していたため、ホテル・旅館も 7 割以上の先が「減少」と回答した。

2021 年度下期見通し

全産業の見通し D I（「増加」－「減少」）は、11.6 と「増加」超となっている。

製造業は、15.6 と「増加」超となっている。このうち機械関連では、生産用、電気、汎用・業務用、輸送の全機械が「増加」超となっている。また、機械関連以外では、和紙・紙製品が「減少」超となっている一方、ニット、プラスチック、宝飾、食品は「増加」超となっている。

非製造業は、7.5 と「増加」超となっている。レジャーが「減少」超、ホテル・旅館で「増加」先と「減少」先が同数となっている以外は、すべての業種が「増加」超となっている。

表3 売上 D I

	2020年度 上期実績	2020年度 下期実績	2021年度 上期実績	2021年度 下期見通し
全産業	△58.5	4.8	△1.6	11.6
製造業	△48.7	11.6	15.6	15.6
非製造業	△67.9	△1.9	△18.9	7.5

4 在 庫

2021 年度上期実績

全産業の実績 D I (「増加」－「減少」) は、2.8 と前期 (0.5) と比べて 2.3 ポイント上昇し、「増加」超となった。

製造業は、6.3 と前期 (0.6) に比べて 5.7 ポイント上昇し、「増加」超となった。このうち機械関連では、生産用、輸送、汎用・業務用の各機械が「増加」超となった。機械関連以外では、ニット、製材、食品、プラスチック、和紙・紙製品が「増加」超となった一方、宝飾は「減少」超となった。なお、家具はすべての先が「横ばい」と回答している。

非製造業は、△ 6.8 と前期 (0.0) と比べて 6.8 ポイント低下し、「減少」超となった。業種別では、卸売が「減少」超に転じたほか、小売も 2 期連続の「減少」超となった。

在庫水準 D I (「過大」－「不足」) をみると、全産業では 11.9 となり、前期 (14.4) を 2.5 ポイント下回ったものの、引き続き「過大」超となった。

製造業は、16.4 で前期 (15.6) から 0.8 ポイントの上昇となった。このうち機械関連では、電気機械が「不足」超となった一方、生産用、汎用・業務用、輸送の各機械は「過大」超となった。機械関連以外では、家具、宝飾、和紙・紙製品、織物、ニット、食品が「過大」超となった一方、プラスチックは「不足」超となった。

非製造業は、0.0 と前期 (11.1) と比べて 11.1 ポイント低下した。卸売が「過大」超となった一方、小売は「不足」超となった。

2021 年度下期見通し

全産業の見通し D I (「増加」－「減少」) は、△ 0.5 と「減少」超となっている。

製造業は、△ 1.3 と「減少」超となっている。このうち機械関連では生産用機械、汎用・業務用機械が「増加」超となっている一方、輸送機械、電気機械は「減少」超となっている。機械関連以外では、プラスチック、和紙・紙製品、食品が「増加」超となっている一方、製材、ニット、織物、宝飾は「減少」超となっている。

非製造業は、1.7 と「増加」超となっており、業種別では卸売が「増加」超となっている一方、小売は「減少」超となっている。

図 4 製品 (商品) 在庫の実績・見通し (全産業) (%)

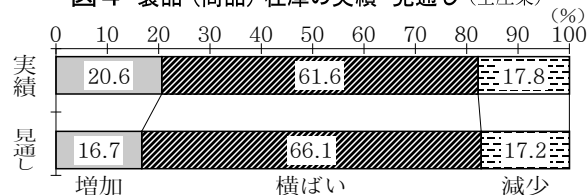


図 5 製品 (商品) 在庫水準 (全産業) (%)

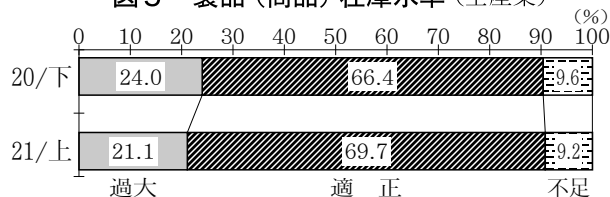


表 4 在 庫 D I

	在庫増減 D I				在庫水準 D I		
	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績	2021 年度 下期見通し	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績
全 産 業	△ 7.6	0.5	2.8	△ 0.5	20.9	14.4	11.9
製 造 業	△ 8.4	0.6	6.3	△ 1.3	24.0	15.6	16.4
非 製 造 業	△ 5.3	0.0	△ 6.8	1.7	12.3	11.1	0.0

5 仕入・販売価格

(1) 仕入価格

2021 年度上期実績

全産業の実績D I（「上昇」－「下落」）は、48.7と「上昇」超となった。原油・原材料価格の上昇などを背景に、前期（29.5）と比べて19.2ポイントの大幅な上昇となった。

製造業は、52.2と前期（30.3）を21.9ポイント上回り、引き続き「上昇」超となった。このうち機械関連では、生産用、汎用・業務用、電気、輸送の全機械が「上昇」超となった。機械関連以外も、すべての業種で「上昇」超となった。特に、プラスチックで8割以上、ニットで8割の先が「上昇」と回答している。

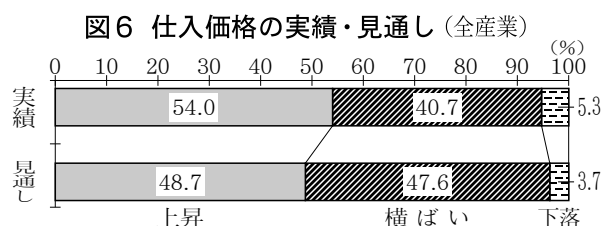
非製造業は、44.6と前期（28.6）を16.0ポイント上回り、すべての業種で「上昇」超となった。

2021 年度下期見通し

全産業の見通しD I（「上昇」－「下落」）は、45.0で、引き続き「上昇」超となっている。

製造業は44.0で、すべての業種で「上昇」超となっている。特に、プラスチックは全先が「上昇」と回答しているほか、ニットでも8割の先が「上昇」と回答している。

非製造業は46.0で、すべての業種で「上昇」超となっている。



(2) 販売価格

2021 年度上期実績

全産業の実績D I（「上昇」－「下落」）は、14.7と前期（6.8）を7.9ポイント上回り、「上昇」超となった。

製造業は、15.0と前期（8.4）を6.6ポイント上回り、「上昇」超となった。このうち機械関連では、電気、輸送、汎用・業務用の各機械が「上昇」超となった一方、生産用機械は「下落」超となった。機械関連以外では、食品で全先が「横ばい」と回答した以外は、すべての業種で「上昇」超となった。

非製造業は、14.5と前期（5.1）を9.4ポイント上回り、すべての業種で「上昇」超となった。

2021 年度下期見通し

全産業の見通しD I（「上昇」－「下落」）は、18.5で、引き続き「上昇」超となっている。

製造業は、19.4で、「上昇」超となっている。業種別では、ニット、プラスチック、輸送機械、電気機械などが「上昇」超となっている。

非製造業は17.6で、サービスで「上昇」と「下落」が拮抗している以外は、すべての業種で「上昇」超となっている。

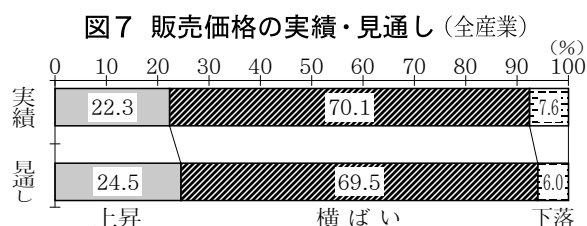


表5 仕入・販売価格D I

	仕 入 価 格 D I				販 売 価 格 D I			
	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績	2021 年度 下期見通し	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績	2021 年度 下期見通し
全 産 業	5.9	29.5	48.7	45.0	△ 4.2	6.8	14.7	18.5
製 造 業	7.2	30.3	52.2	44.0	△ 4.5	8.4	15.0	19.4
非 製 造 業	4.4	28.6	44.6	46.0	△ 3.8	5.1	14.5	17.6

6 収 益

2021 年度上期実績

全産業の実績 D I（「増加」－「減少」）は、 $\Delta 9.4$ と前期（2.6）と比べて 12.0 ポイント低下し、「減少」超に転じた。新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、企業収益が悪化した状況が窺える。

製造業は、8.8 と前期（2.6）と比べて 6.2 ポイント上昇し、「増加」超となった。このうち機械関連では、生産用、汎用・業務用、電気、輸送の全機械で「増加」と回答した先が半数以上を占め、「増加」超となった。機械関連以外では、宝飾が「増加」超となった一方、織物、食品、家具、ニットは「減少」超となった。

非製造業は、 $\Delta 27.7$ と前期（2.5）と比べて 30.2 ポイント低下し、「減少」超となった。業種別では、レジャーが「増加」超となった一方、ホテル・旅館、卸売、小売、建設、サービスは「減少」超となった。特に、ホテル・旅館で 7 割以上の先が「減少」と回答した。

2021 年度下期見通し

全産業の見通し D I（「増加」－「減少」）は、5.6 と「増加」超となっている。

製造業は、11.9 と「増加」超となっている。このうち機械関連では、生産用、電気、輸送の各機械が「増加」超となっている。機械関連以外では、ニット、プラスチック、宝飾が「増加」超となっている一方、製材、織物は「減少」超となっている。

非製造業は $\Delta 0.6$ と「減少」超となっている。

業種別では、建設、運輸、卸売が「増加」超となっている一方、レジャー、小売、サービス、ホテル・旅館は「減少」超となっている。依然として、感染症の収束が見通せないなか、製造業と比べて厳しい見方がなされている。

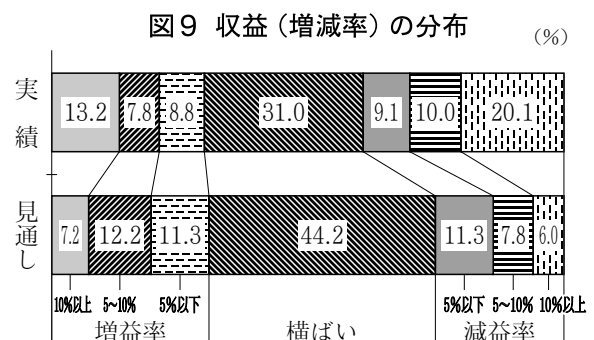
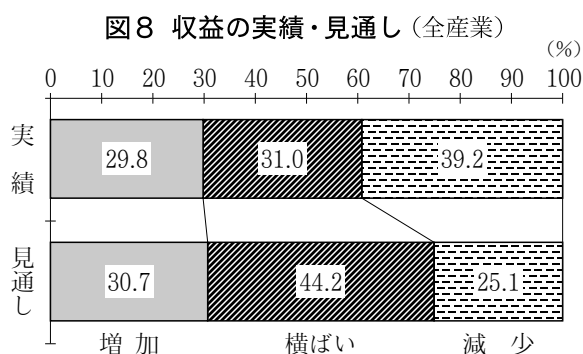


表6 収 益 D I

	2020 年度上期実績	2020 年度下期実績	2021 年度上期実績	2021 年度下期見通し
全 産 業	$\Delta 53.0$	2.6	$\Delta 9.4$	5.6
製 造 業	$\Delta 50.6$	2.6	8.8	11.9
非 製 造 業	$\Delta 55.3$	2.5	$\Delta 27.7$	$\Delta 0.6$

7 資金繰り

2021 年度上期実績

全産業の実績 D I（「好転」－「悪化」）は、 $\Delta 5.0$ と前期（ $\Delta 1.3$ ）と比べて 3.7 ポイント低下し、引き続き「悪化」超となった。

製造業は、 $\Delta 0.6$ と前期（ $\Delta 1.3$ ）と比べて 0.7 ポイント上昇したものの、「悪化」超となった。このうち機械関連では、汎用・業務用、電気、生産用の各機械が「好転」超となった一方、輸送機械は「悪化」超となった。機械関連以外では、ニット、プラスチックが「好転」超となった一方、織物、家具、製材、宝飾、食品は「悪化」超となった。

非製造業は、 $\Delta 9.4$ と前期（ $\Delta 1.3$ ）と比べて 8.1 ポイント低下し「悪化」超となった。業種別では、レジャーが「好転」超、運輸で「好転」と「悪化」が拮抗した以外は、すべての業種で「悪化」超となった。特に、感染拡大の影響が大きかった旅館・ホテルでは、6 割以上の先が「悪化」と回答した。

2021 年度下期見通し

全産業の見通し D I（「好転」－「悪化」）は、1.3 と「好転」超となっている。

製造業は、 $\Delta 0.6$ と「悪化」超となっている。このうち機械関連では、電気、生産用、輸送の各機械が「好転」超となっている一方、汎用・業務用機械は「悪化」超となっている。機械関連以外では、ニット、プラスチック、食品が「好転」超となっている一方、織物、製材、宝飾は「悪化」超となっている。

非製造業は、3.1 と「好転」超となっている。建設、小売、運輸、卸売が「好転」超となっている一方、レジャー、ホテル・旅館は「悪化」超となっている。

図 10 資金繰りの実績・見通し（全産業）

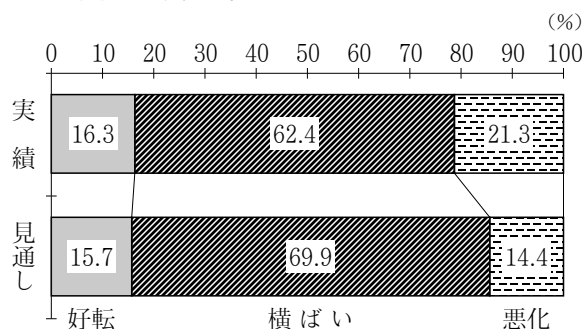


表 7 資金繰り D I

	2020 年度上期実績	2020 年度下期実績	2021 年度上期実績	2021 年度下期見通し
全 産 業	$\Delta 22.7$	$\Delta 1.3$	$\Delta 5.0$	1.3
製 造 業	$\Delta 22.1$	$\Delta 1.3$	$\Delta 0.6$	$\Delta 0.6$
非 製 造 業	$\Delta 23.3$	$\Delta 1.3$	$\Delta 9.4$	3.1

8 設備投資（5百万円以上）

2021 年度上期実績

2021 年度上期の実施率は、34.5%と前期（36.9%）から 2.4 ポイント低下した。また、投資額増減の実績 D I（「増加」－「減少」）も、△10.4 と前期（△9.3）と比べて 1.1 ポイント低下し、5 期連続の「減少」超となった。新型コロナウイルスの感染状況や半導体不足など、景気の先行きは不透明であり、企業の設備投資姿勢が慎重化している様子が窺われる。

製造業は、実施率が 33.1%と前期（36.8%）を 3.7 ポイント下回った。このうち機械関連では、生産用機械が上昇した一方、輸送機械、汎用・業務用機械は低下した。機械関連以外では、プラスチック、織物が上昇した一方、食品、和紙・紙製品、宝飾は低下した。

また、投資額の増減は、△10.0 と前期（△1.9）と比べて 8.1 ポイント低下した。ニット、生産用機械が「増加」超となった一方、汎用・業務用機械、プラスチックなどは「減少」超となった。

非製造業は、実施率が 35.8%と前期（36.9%）を 1.1 ポイント下回った。運輸、サービス、卸売が上昇した一方、小売、ホテル・旅館、建設は減少した。

また、投資額の増減は、△10.8 と前期（△16.7）と比べて 5.9 ポイント上昇したものの、4 期連続の「減少」超となった。卸売、サービスが「増加」超となった一方、ホテル・旅館、運輸、小売、レジャー、建設は「減少」超となった。

投資目的（複数回答）については、製造業は「能力拡大」、「補修・更新」、「合理化・省力化」の順となり、前期と比べて「新製品生産」、「福利厚生」の低下が目立った。非製造業では「補修・更新」、「能力拡大」、「合理化・省力化」の順となり、前期と比べて「合理化・省力化」の上昇、「能力拡大」の低下が目立った。

図 11 設備投資の実績・見通し（全産業）

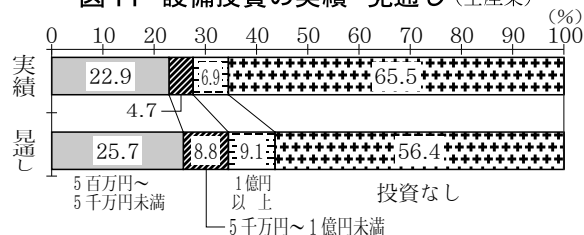


図 12 設備投資額増減の実績・見通し（全産業）

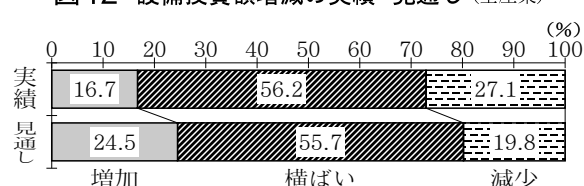


表 8 設備投資額増減の実績・見通し D I

	2020 年度 上期実績	2020 年度 下期実績	2021 年度 上期実績	2021 年度 下期見通し
全産業	△23.2	△9.3	△10.4	4.7
製造業	△23.5	△1.9	△10.0	8.8
非製造業	△22.8	△16.7	△10.8	0.6

図 13 設備投資内容の実績・見通し（全産業）

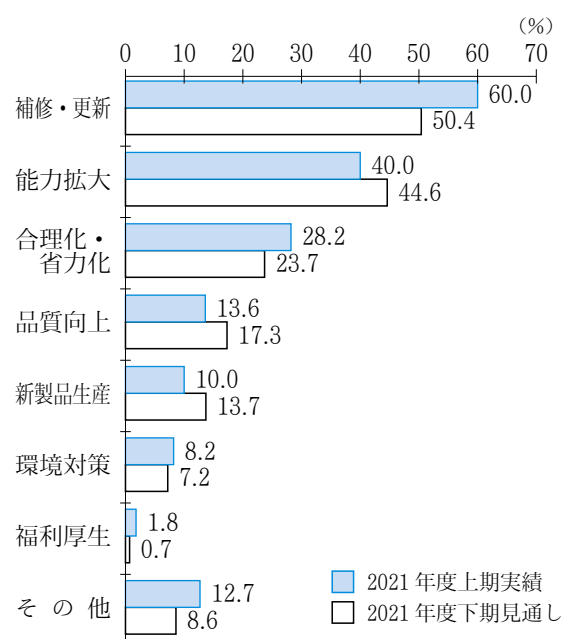


図14 設備投資実施企業割合の推移（全産業）

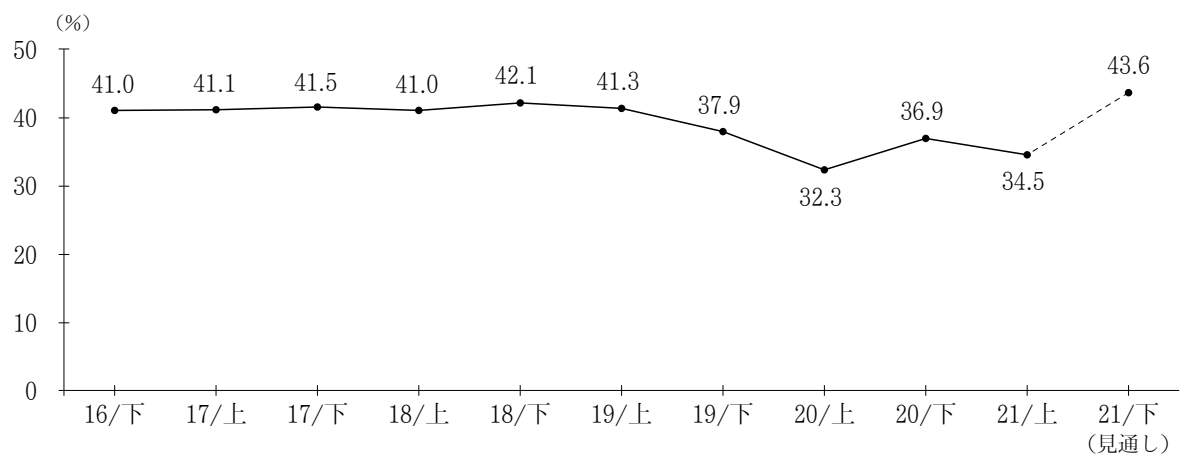


図15 設備投資実施企業割合の推移（製造業）

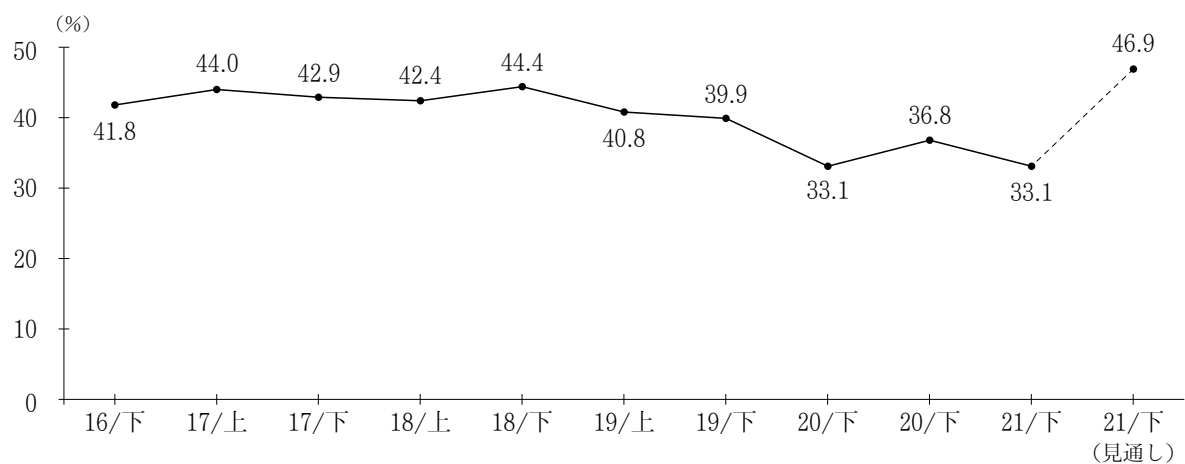
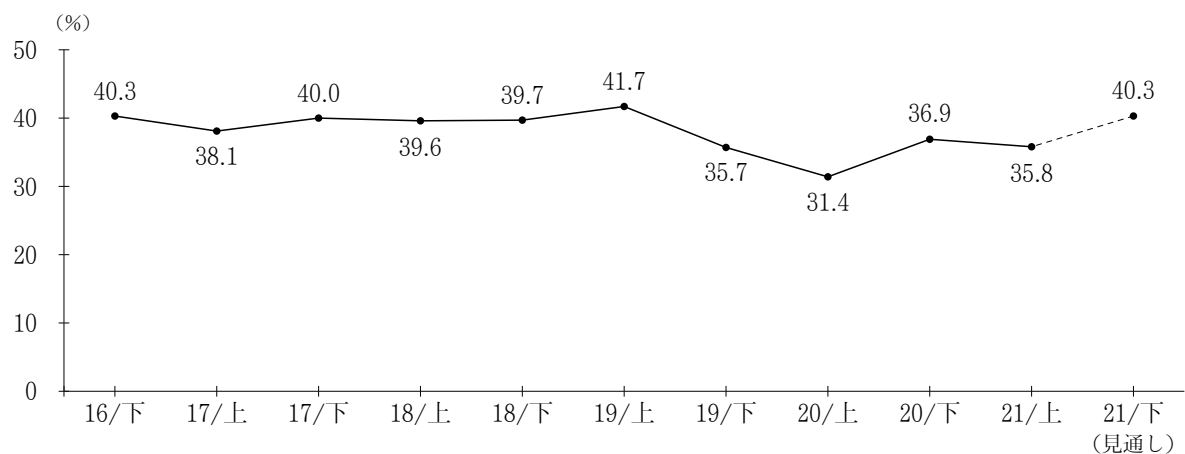


図16 設備投資実施企業割合の推移（非製造業）



2021 年度下期計画

2021 年度下期の実施予定率は、43.6%と前期実績（34.5%）を 9.1 ポイント上回っている。また、投資額増減の見通し D I（「増加」－「減少」）も、4.7 と「増加」超となっている。

製造業は、実施予定率が 46.9%と前期実績（33.1%）と比べて 13.8 ポイント上昇している。このうち機械関連では、輸送、電気、生産用、汎用・業務用の全機械が上昇している。機械関連以外では、プラスチック、食品、ニット、宝飾が上昇している。

また、投資額の見通しは、8.8 と「増加」超となっている。電気機械、食品、汎用・業務用機械、輸送機械、プラスチックが「増加」超となっている一方、和紙・紙製品、家具、製材は「減少」超となっている。

非製造業は、実施予定率が 40.3%と前期実績（35.8%）を 4.5 ポイント上回っている。レジャー、ホテル・旅館、小売、建設が上昇する一方、サービス、卸売は低下している。

また、投資額の見通しは、0.6 と「増加」超となっている。小売、ホテル・旅館、建設が「増加」超となっている一方、卸売、サービス

は「減少」超となっている。なお、運輸、レジャーは「増加」先と「減少」先が同数となっている。

投資目的（複数回答）については、製造業では「能力拡大」、「補修更新」、「合理化・省力化」の順となり、前期実績と比較して「補修・更新」、「合理化・省力化」の低下が目立っている。非製造業では「補修・更新」、「能力拡大」、「合理化・省力化」の順となり、前期実績と比較して「能力拡大」の上昇、「補修・更新」の低下が目立っている。

図 17 設備資金調達方法の実績・見通し（全産業）

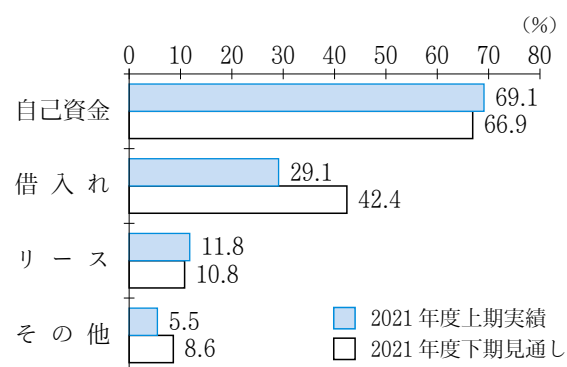
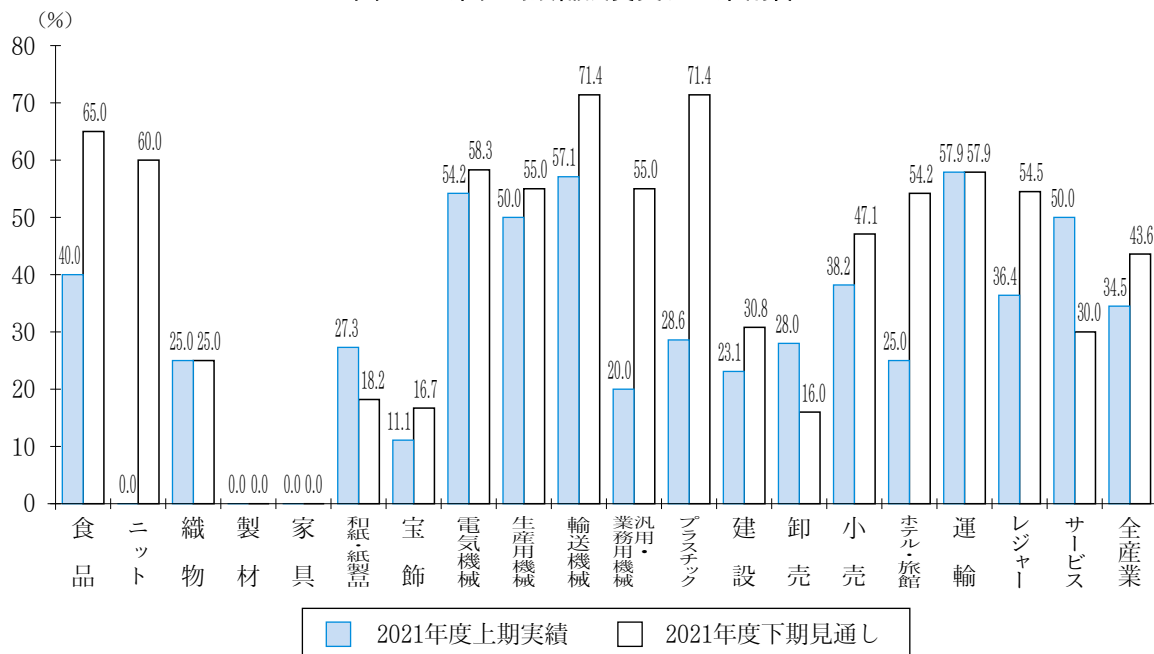


図 18 業種別設備投資実施企業割合



9 経営上の問題点

当面する経営上の問題点（3項目選択）は、「売上不振」が39.2％と最多で、以下、「従業員の高齢化」（29.5％）、「人材・技術不足」（25.4％）、「労働力不足」（25.1％）、「仕入価格高騰」（23.8％）と続いた。

前期と比較すると、機械工業で堅調な受注が続いたことから「売上不振」が3.1ポイント低下した一方、原油・原材料価格の上昇や世界的な半導体不足などを背景に「仕入価格高騰」、「原材料・商品入手難」は各々7.5、4.5ポイント上昇した。また「労働力不足」も4.9ポイント上昇しており、経済活動正常化に伴い、企業の人手不足感が強まっている様子が窺われた。

業種別にみると、製造業では、「売上不振」（41.3％）、「仕入価格高騰」（29.4％）、「従業員の高齢化」（26.9％）、「人材・技術不足」（24.4％）、「労働力不足」（21.9％）の順となった。前期と比較すると、「仕入価格高騰」（前期比＋6.8ポイント）、「原材料・商品入手難」（同＋5.9ポイント）などが上昇した一方、「収益悪化」（同△7.0ポイント）などは低下した。

非製造業では、「売上不振」（37.1％）、「従業員の高齢化」（32.1％）、「労働力不足」（28.3％）、「人材・技術不足」・「競争激化」（ともに26.4％）の順となった。前期と比較すると「仕入価格高騰」（同＋8.0ポイント）、「収益悪化」（同＋5.5ポイント）、「労働力不足」（同＋4.1ポイント）などが上昇した一方、「売上不振」（同△4.9ポイント）などは減少した。

表9 経営上の問題点（全産業）

	比 率		順 位	
	前回	今回	前回	今回
	(%)	(%)		
売 上 不 振	42.3	39.2	1	1
従業員の高齢化	31.1	29.5	2	2
人材・技術不足	25.3	25.4	3	3
労働力不足	20.2	25.1	6	4
仕入価格高騰	16.3	23.8	8	5
収益悪化	22.1	21.3	4	6
競争激化	20.5	19.4	5	7
後継者育成	17.0	17.6	7	8
人件費増大	11.9	11.6	9	9
原材料・商品入手難	7.1	11.6	11	9
設備不足	9.0	6.6	10	11
資金繰り難	5.8	6.0	13	12
在庫過剰	5.4	6.0	14	12
販売(受注)価格低下	6.7	4.7	12	14
在庫不足	1.6	2.5	17	15
労働力過剰	2.6	1.3	16	16
為替レート	2.9	1.3	15	16
設備過剰	0.6	0.9	18	18
代金回収難	0.3	0.0	19	19
そ の 他	7.4	6.9	—	—

表10 経営上の問題点 業種別上位5項目

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 産 業	売 上 不 振	従業員の高齢化	人材・技術不足	労 働 力 不 足	仕入価格高騰
製 造 業	売 上 不 振	仕入価格高騰	従業員の高齢化	人材・技術不足	労 働 力 不 足
食 品	売 上 不 振	仕入価格高騰	労 働 力 不 足 、 収 益 悪 化		従業員の高齢化、 在 庫 過 剰
ニ ッ ト	売上不振、人材・技術不足		労働力不足、仕入価格高騰、収益悪化ほか2項目		
織 物	売 上 不 振	従業員の 高 齢 化、労働力不足、後継者育成			人材・技術不足 ほ か 3 項 目
製 材	仕入価格高騰	従業員の 高 齢 化、労働力不足、原材料・商品入手難			売 上 不 振 ほ か 5 項 目
家 具	従業員の 高 齢 化、仕入価格高騰、収益悪化			売上不振、人材・技術不足ほか2項目	
和紙・紙製品	売 上 不 振	仕入価格高騰	従 業 員 の 高 齢 化、競 争 激 化、在 庫 過 剰		
宝 飾	売 上 不 振	仕入価格高騰	人材・技術不足	従業員の 高 齢 化、競 争 激 化、在 庫 過 剰	
電 気 機 械	原 材 料 ・ 商品入手難	人材・技術不足	従業員の 高 齢 化	売上不振、労働力不足、仕入価格高騰	
生産用機械	人材・技術不足、原材料・商品入手難		労 働 力 不 足	設 備 不 足	後 継 者 育 成
輸 送 機 械	売 上 不 振	従業員の 高 齢 化、仕入価格高騰		後 継 者 育 成	人材・技術不足、 原材料・商品入手難
汎用・業務用機械	売 上 不 振	従業員の 高 齢 化、労働力不足		後 継 者 育 成	人材・技術不足、 収 益 悪 化
プラスチック	従業員の 高 齢 化	仕入価格高騰	労 働 力 不 足 ・ 人 件 費 増 大		売 上 不 振 ほ か 4 項 目
非 製 造 業	売 上 不 振	従業員の 高 齢 化	労 働 力 不 足	人材・技術不足、競 争 激 化	
建 設	従業員の 高 齢 化	人材・技術不足	競 争 激 化	労 働 力 不 足、仕入価格高騰	
卸 売	売上不振、従業員の 高 齢 化		労 働 力 不 足、後 継 者 育 成		収 益 悪 化
小 売	競 争 激 化	売 上 不 振	労 働 力 不 足	収益悪化、後継者育成、人件費増大	
ホテル・旅館	売 上 不 振	収 益 悪 化	資 金 繰 り 難	労 働 力 不 足	従業員の 高 齢 化 ほ か 2 項 目
運 輸	従業員の 高 齢 化	売上不振、仕入価格高騰		労 働 力 不 足、人 件 費 増 大	
レ ジ ャ ー	従業員の 高 齢 化	人材・技術不足	売 上 不 振	収 益 悪 化	労働力不足、 後 継 者 育 成
サ ー ビ ス	人材・技術不足	労 働 力 不 足	競 争 激 化	収益悪化、後継者育成、人件費増大	

10 雇 用

2021年度上期の雇用D I（「過剰」－「不足」）は、△13.5と前期（△8.3）と比べて5.2ポイントの低下となり、2期連続の「不足」超となった。

製造業は、△17.5と前期（△4.5）と比べて13.0ポイントと大きく低下した。このうち機械関連では、生産用、電気、汎用・業務用、輸送の全機械が「不足」超となった。また、機械関連以外ではニット、織物が「過剰」超となった一方、プラスチック、家具、製材、宝飾、食品は「不足」超となった。

非製造業は、△9.4と前期（△12.1）と比べて2.7ポイント上昇したものの、引き続き「不足」超となった。業種別ではホテル・旅館、運輸が「過剰」超となっており、特にホテル・旅館では「過剰」と回答した先が半数近くを占めた。一方、建設、サービス、レジャー、小売、卸

売は「不足」超となった。

今後の対策では、「現状維持」（43.3%）が最多で、以下、「正社員の採用」（37.3%）、「アルバイト・パートの補充」（9.7%）と続いている。前期と比較すると、「人員整理・希望退職」、「正社員の採用」などが低下した一方、「派遣社員の活用」、「アルバイト・パートの補充」などは上昇した。人手不足に対して、一時的な雇用で補おうとする企業の姿勢が窺える。

業種別にみると、製造業では「現状維持」、「正社員の採用」、「アルバイト・パートの補充」の順、非製造業では「正社員の採用」、「現状維持」、「アルバイト・パートの補充」の順となっている。なお、人材不足が深刻な建設や業況が堅調な生産用機械では「正社員の採用」が各々76.9%、65.0%となっており、正規雇用により人員増強を図る動きがみられた。

図19 雇用充足度の推移（全産業）

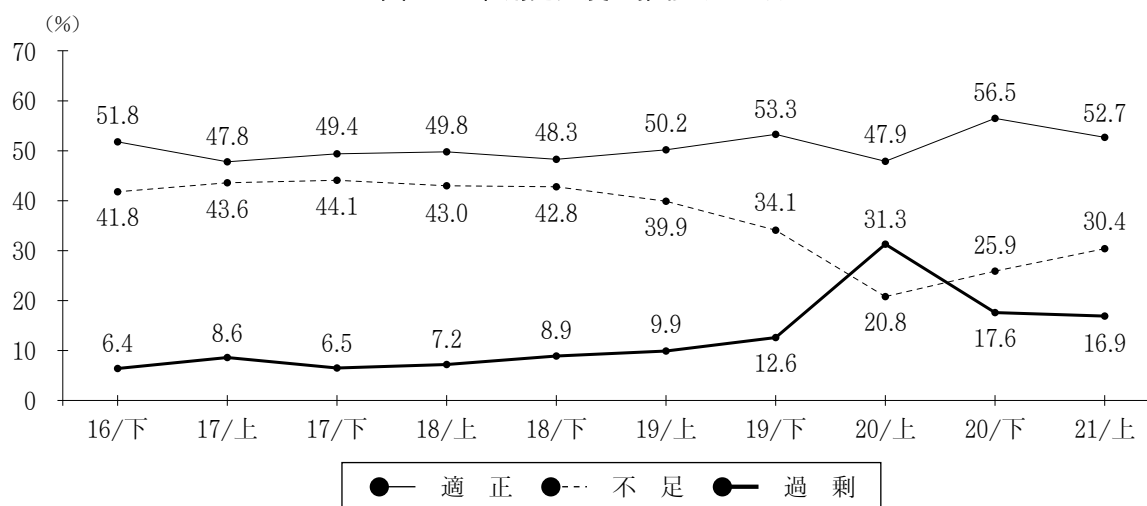
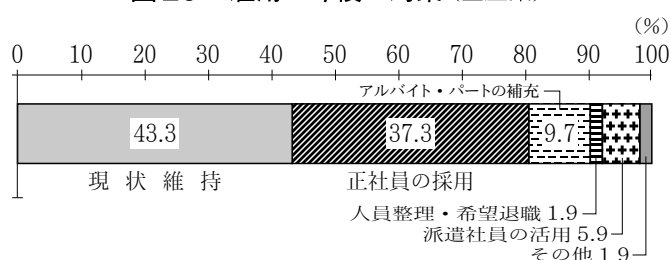


表11 雇 用 D I

	2020年度 上期実績	2020年度 下期実績	2021年度 上期実績
全 産 業	10.5	△ 8.3	△ 13.5
製 造 業	21.4	△ 4.5	△ 17.5
非製造業	0.0	△ 12.1	△ 9.4

図20 雇用の今後の対策（全産業）



法人・個人事業主さま

さまざまな事業のお悩みを解決します

法人向けWEB相談受付サービス



いつでもご相談にお応えします！

資金調達

コンサル
ティング

ビジネス
マッチング

国際業務
海外展開

- 資金調達（ご融資、私募債、ファンド 他）
- コンサルティング（ICT 導入、公的支援策活用、人事・労務 他）
- ビジネスマッチング（販売先、仕入先 他）
- 各種情報
- 資金管理・運用
- 国際業務・海外展開
- その他

※ご相談につきましては、お客さまへ電話・メールまたは訪問にて対応させていただきます。

※ご相談内容は、ご希望の店舗と共有させていただきます。

◎当行ホームページ「法人向けWEB相談受付サービス」からご相談いただけます。

URL：https://yamanashibank.secure.force.com/soudan/YCB_ConsultationForm



ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>
2020年3月16日現在